

令和5年度卒業証書・学位記授与式 式辞

本日、卒業証書・学位記を授与された皆さん、そして保護者の方々、ご卒業まことにおめでとうございます。皆さんが入学したのは、コロナ禍の真っ只中でした。学業やキャンパスライフが思うに任せない状況の中で、皆さんは真摯に勉学に励み、学問を修め、また免許や資格を取得して、めでたく本日の卒業式を迎えられました。今日ここに、皆さんの努力を大いに称えたいと思います。

保護者の皆さま方におかれましては、お子様方がコロナ禍を克服し、学業を成就されたことに、お喜びひとしおのことと思います。ご卒業までのご支援、真にありがとうございました。また、ご指導に当たられた先生方も、大変ご苦労様でした。先生方のご尽力に心より敬意を表します。

さて、今年元日に発生した能登半島地震は、私たちの記憶に新しいところです。この地震で多くの方が亡くなられ、また被災されたことは、真に痛ましい限りです。一方、世界に目を向けると、ロシアのウクライナ侵攻は継続し、新たにパレスチナの紛争が勃発しました。また、世界各地から気候変動による自然災害が、毎日のように報道されています。今日、私たちを取り巻く世界は予想しがたく、こうした状況はこれからも続くことでしょう。

しかし、このような不確実な時代に在って、私たちはたくましく生きて行かなければなりません。卒業される皆さんは「真理はわれらを自由にする」という建学の精神のもと、それぞれの学問分野で卒業・修了に必要な学びを修めました。皆さんは何が真実であるかを見極め、真実に基づき行動する術を学んだはずです。この混沌とした時代にあって、現実を正しく認識

し、将来をしっかりと洞察する力はすでに身につけています。あとは皆さんが自らの人生を豊かなものにするため、絶えず努力と工夫を重ねることが大切です。私たちの学びに終わりはありません。それぞれが選んだ道において、急ぐ必要はありませんので、たゆまず努力し前進し続けて下さい。

皆さんは本学で社会人としての力を身につけましたが、もう一つ大変得がたいものを獲得しました。それは、学友や教職員との「絆」です。この絆は皆さん方の一生の宝物となることと思います。今後、自らの努力だけでは解決できないことも出てくるでしょう。その時は学友や私たち教職員のことを思い出して下さい。きっと皆さんの力になってくれると思います。

本学で学び、友と語り過ごした日々が、皆さんのよい思い出になることを願うとともに、本学での学びと経験を糧として、皆さんが社会で活躍されることをお祈りいたします。

最後になりましたが、本日ご臨席いただきました梅林後援会長様、県下高等学校の諸先生ほかご来賓の方々に、心より厚くお礼申し上げます、式辞といたします。

令和6年3月19日
別府大学
別府大学短期大学部
学 長 友 永 植